

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かももの (すばる棟)		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和7年8月1日	評価結果市町村受理日	令和7年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200302-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではBCP対策としてV2H機器を導入し、太陽光発電パネルを設置しましたので、災害などの停電時でも安心して生活していただけます。また、グループホームでは珍しいリフト浴を導入しており、立位が困難な方でも安全・安楽に入浴することができます。職員の入浴介助による業務負担の軽減にも繋がっています。感染予防対策として、オゾン発生器や空気清浄機を各棟に配置し、感染症発生時には簡易陰圧装置にて早期の段階で居室隔離が可能となっていますので、感染拡大を予防することができます。毎日の手作り食事、季節ごとのイベントにも力を入れております。今年は掛川花鳥園に日帰り旅行へ行きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな窓から豊かな自然を楽しむことができ、明るく清潔な事業所である。利用者と職員の穏やかな様子から、充実した支援が行われてる事がうかがえる。調理専門職員の手作り料理、運営推進会議の夜間開催、県外日帰り旅行の企画や太陽光発電パネル、リフト浴や簡易陰圧装置等の設備導入により、利用者や職員の安全確保と生活を豊かにする取り組みを行っている。正規職員の看護師と介護職員が協働して重度化や看取りの支援も行っている。家族会や地域お助け協力隊、職員代表者が参加する労使会議などにより、家族・地域住民・職員との関係や意見を反映しながら、運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(すばる棟)

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や介護理念を常に目の届く所に掲示しており、毎月のカンファレンスの際に唱和し、共有している。また、「穏やかにゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し、職員間で声を掛け合い介助を行っている。	職員が常に理念を意識してケアできるよう、玄関などへの掲示や月2回実施しているカンファレンスで唱和し、意識の共有を図っている。忙しい時にも「穏やかにゆっくりと」、利用者のペースに合わせて関わられるよう、職員同士が声を掛け合い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れにて交流を図っている。	利用者も職員と一緒に自治会主催や地域包括支援センター主催の行事や活動に参加し、地域住民と交流している。地域のボランティアや中学生、特別支援学校生徒の職場体験などを受け入れ、交流している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいている。ご意見やご要望等を受け、当施設への取り組みに活かしている。また、会議内容もご家族様へ郵送にて報告している。	現在、運営推進会議は、委員が出席し易い19時から開催している。市の高齢福祉課、民生委員、長寿支援センター、家族代表、自治会長が参加し意見交換を行ない、サービス向上に活かしている。家族には、毎月請求書と共に議事録を同封し報告している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき情報交換を行っている。近年は電子申請が多くなり、市役所へ行く機会が減少しているが、相談事などは電話やメール等にて連絡を取り合い関係性を築いている。	市高齢福祉課の担当者が、運営推進会議に参加しており情報交換を行っている。担当職員の異動も多い為、会議時や電話、メール等で報告や相談を密に行い、協力関係を維持するよう努めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。	身体拘束廃止委員会と虐待防止検討委員会とは同日に開催し、研修は年2回実施している。毎月ケア会議でケアの振り返りを行い、事故防止や身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の開催と施設内外での研修を実施し、全職員に周知することで虐待防止について共通の認識を持ち、防止に努めている。	虐待防止検討委員会と研修は定期的に開催している。虐待の芽チェックリストと日々のケアで、不適切ケアはないか、確認し合っている。写真を撮って職員と共に話し合いながら、改善している。職員同士が声をかけ合い、不適切ケアの予防に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、外部研修等で学んでいる。必要に応じ活用できるよう支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対して十分な説明を行い、時間をかけて理解していただけるよう努めています。また、改定があった際には書面にて通知し、その都度、疑問点や不安なことなどがあった際は説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来設された際にご意見やご要望などお聞きしている。いただいたご意見等はすぐに検討し、対応させていただいている。	年1回開催の家族会や面会時、電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映させている。次回の家族会でエンディングノートについて伝える予定である。来訪がない家族が増加しており、利用者の様子を手紙や写真で知らせたり、事業所に写真を掲示するなど、面会を促す取り組みをしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、職員代表が全職員の意見や提案を聞き、労使会議にて意見を聞く機会を設け話し合っている。また、会議結果をカンファレンス等にて全職員に反映させている。	経営者・社労士・同法人事業所の職員代表が参加する労使会議を行っている。職員の意見を反映した就業規則の改正や祖父母休暇の導入など、運営改善を図っている。管理者や事務長が日々の業務の中で職員の意見や要望を聴き、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	常に職員の努力や実績の把握に努めている。また、資格取得支援制度を利用し、職員のスキルアップを図るとともに向上心をもって勤務できるよう支援している。育児・介護休業法の改定に伴い、休暇取得しやすい環境の整備を行った。	管理者は、年1回以上、職員の個人面談を行い働き方や資格取得など、職員の思いを聴いている。勤務配置や休暇希望など、家庭の事情にも配慮しながら、働きやすい環境を整備しており、継続年数が長い職員が多い。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修に参加し、個々のスキルアップの向上に努めている。また、より良いケアを行うため、常に職員同士でも話し合い互いに高め合える環境を整えている。	事業所での内部研修は、年間計画を立て実施している。義務付けられた研修や資格取得の研修などは、受講費補助や勤務調整を行っている。外部研修は情報を職員に紹介し、参加しやすいよう環境を整えている。	

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降、同業者との交流する機会が無かったが今年度はネットワーク会議の開催があった。参加予定だったが、今回は事情により参加できなかった為、次回開催時は積極的に参加したい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物、洗濯干しや畳む等、以前からされていたことを主に担当していただくことで、暮らしを共にする者同士の関係性を築いている。また、レクリエーションや物づくり等と一緒に時間を設け関わりを持たせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様に話しを伺ったり、利用者様との何気ない日常の会話の中から、趣味や特技を把握し、意向に沿った支援が行えるよう努めている。	日々、利用者との関わりの中で希望や要望を聴いている。意思表示が困難な利用者には、仕草や反応、家族から得た情報も検討し支援している。誕生日や正月には、酒類の提供や関心のあることなどを組み入れ、可能な限り希望を叶えるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が来設された際に、ご家族様の要望や意向の確認を心掛けているが、出来ない時にはお電話にて確認させていただいている。また、利用者様一人ひとりに各担当職員がついており、担当者がモニタリングを行いチームで介護計画を作成している。	家族や医師などからは事前に意見を得て、半年ごとにモニタリングを行っている。状態の変化があった場合には、家族に相談しながら介護計画を変更するなど利用者の状態に応じて柔軟に対応している。職員は、常に介護計画を確認し、計画に沿ったケアを実践している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が電子記録となったことで、日々の様子を容易に閲覧することが可能となり、情報共有しやすくなった。電子記録の申し送り機能の活用のほかにも申し送りノートを用い、さらに細かな気づきを記入することで、毎日の実践に活かされている。	介護記録がタブレット入力になった事で、記録内容を容易に閲覧できるようになった。情報共有がし易くなり、介護計画の見直しにも活かしている。事故報告なども、介護記録に記載し職員間で共有している。伝達事項の漏れが起こらないよう、手書きの申し送りノートも併用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望に対し、柔軟な支援が行えるよう可能な限り努めている。また、配置基準はありませんが、常勤の看護師を配置し、オンコール対応を行うことでサービスの多機能化に取り組んでいる。	入浴支援設備や介護ロボット、太陽光発電・V2H機器、オゾン発生器、簡易陰圧装置などを導入し、利用者や職員の安全確保に取り組んでいる。常勤の看護師や同法人運営の看護小規模多機能型居宅介護と協働し、サービスの多機能化に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域住民の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外のかかりつけ医を受診される際には、ご本人の症状をご家族様と共有するとともに、必要に応じ施設看護師から直接かかりつけ医へ症状をお伝えすることで適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に、かかりつけ医が選択できることを説明しているが、現在は全員が協力医を選択している。月2回往診を受け、整形外科や眼科などの通院は、家族の送迎が基本となっている。家族が送迎できない場合は、有料で職員が同行する体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の際は、病院関係者と連絡を取り合い、情報交換や相談に努めている。	入院時は、利用者のサマリーをFAXで送り、情報を伝えている。入院中の状況は、病院関係者や家族から電話で情報を得ている。退院予定日前に家族と事前相談を行い、利用者がスムーズに事業所での生活が再開できるよう、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前から、本人やご家族様に対し重症化した場合や終末期について施設で可能な支援について十分な説明を行うとともに同意を得ている。また、その都度ご家族様と話し合いながら支援している。	重度化や看取りケアの際には、本人や家族と話し合い、意向の把握に努めている。年1回看取りケア研修会では、ケアの振り返りと職員の心のサポートについても、学んでいる。勤務年数が長く、看取り経験も豊富な職員も多く、安定した支援が提供できている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に対し、応急手当や初期対応についての訓練を定期的に行い、実践力を身に付けられるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に対し、昼夜の火災を想定した訓練や地震を想定した避難訓練を定期的を実施している。近隣地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れ受託している。	BCPを策定し、夜間想定での訓練も含めて、年4回の避難訓練を実施している。地域住民の参加もあり、災害時の連絡網には自治会長の登録及び地域への依頼も行なっている。火災発生時は、近隣の自治会にも協力依頼をしている。災害時においては、市から委託を受け、地域の避難場所として受け入れられる体制がある。	災害時の協力について、地域の意思確認は得ている。住民が協力しやすい具体的な支援内容を示すなど、BCP計画書・避難訓練計画に追記されたい。それに基づいた訓練や協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレや居室入口にカーテンを設置し、外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重した言葉かけや対応ができるよう全職員に対して指導している。	尊厳の保持や接遇、スピーチロックなどの研修を行っている。利用者を抑制するような言葉遣いや対応をしないよう職員同士が意識し、声掛けしながら利用者の尊厳保持に努めている。また、プライバシーに配慮し、居室やトイレのドア内側にカーテンを掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面において自己選択する機会を設け、できる限り自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、できる限り希望に沿った支援を心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内にて職員が毎日手作りの食事を提供しており、楽しみとなるよう誕生日や行事に合わせたメニューに変更することもあります。行事食と一緒に作ったり、配膳と一緒に رفتったりと個々の力を活かすことができるよう支援している。	管理栄養士が献立を立て、朝食は夜勤者、昼・夕食は調理専任職員が手作りにしている。食材の買い出し、調理・配膳・片付け等は利用者も一緒に行っている。誕生日や行事食は、好みのメニューやビュッフェ形式での提供で、食事を楽しめるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量については、毎食の摂取量を記録し、個々の栄養管理に努めている。摂取困難な状態の方はゼリー飲料や栄養補助食品等を活用しながら、できる限り経口摂取していただけるよう努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただき、自己ケア困難な方は介助させていただき、口腔衛生に努めている。また、歯科医による口腔検診も受けている。	利用者の状態に応じた方法で、毎食後に口腔ケアを行い、義歯洗浄・消毒は職員が行っている。全利用者が市の健診を受けられるよう支援し、口腔内の清潔保持に努めている。希望者は、定期的に訪問歯科も利用している。	

岐阜県 グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄していただくよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難な方でも安心安楽に入浴を楽しんでいただいている。また、入浴順は決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるように努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休憩時間を設けている。足背や下肢に浮腫のある方には足挙上にて改善に努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書が綴っており、薬の情報が閲覧できるようになっている。服薬後の状態や変化があった際には、看護師に報告し、看護師から協力医や服薬管理をしている薬剤師へ相談するよう体制を整えている。	セットされた薬剤が薬局から届いている。クリニックからの薬剤は看護師が追加でセットし、鍵付きロッカーで管理している。当日の薬剤は夜勤と日勤者がダブルチェックし、利用者の前で読み上げ、飲み込みまでを確認、誤薬予防に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援するよう努めている。また、時にはお酒を嗜んでいたいたり、喫茶店に行ったりして気分転換を図っている。	計算・漢字・塗り絵などの脳トレや、麻雀・音楽療法、季節の作品作りなど、楽しみながら出来るよう工夫している。盆・正月の飲酒や喫茶店・うなぎ店への外食など、希望を聞き、気分転換ができるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出掛けるほか、旅行やドライブなど外出する機会を設けている。また、ご家族様の協力のもと自宅に帰られたり、散歩や食事に出掛けられたりされることもあります。	近所の散歩や畑の草取り、中庭でのカフェタイム等で気分転換を図っている。家族とランチに出かける人もある。今年は掛川花鳥園へ7人の利用者が日帰り旅行に出かけている。参加できない利用者は、買い物やドライブなどへ出かけている。	

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、施設内でお金を所持されている方がいらっしゃらない為、支援していない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族様やお友達の方との電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者様が共同で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾られており、季節感を表現している。イベントの写真も掲示しており、入居者様同士の会話のきっかけになっている。	リビングや廊下には、手作り作品や利用者の写真が掲示してあり、訪問する家族の楽しみにもなっている。共用空間は整理整頓され、清潔で居心地が良い空間となっている。利用者の活動や移動及び職員が安全に介助が行えるよう、スペースも広く確保されている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓際で日向ぼっこしながら、外の風景を眺めたり、ソファにて寛いでいただけます。また、入居者様同士の相性によって不快なく過ごせるようにその都度、席替えを行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の希望でテレビや使い慣れたタンスなどの調度品を設置している。居室にはご家族様との写真やご本人の作品を掲示し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、手すりも各所に設置されている為、安全に生活して頂けます。居室にはご本人のお名前と写真を掲示し、分かり易くすることで自立した生活を送れるよう工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの (きらら棟)		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和7年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(きらら棟)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や介護理念を常に目の届く所に掲示しており、毎月のカンファレンスの際に唱和し、共有している。また、「穏やかにゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し、職員間で声を掛け合い介助を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れにて交流を図っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいている。ご意見やご要望等を受け、当施設への取り組みに活かしている。また、会議内容もご家族様へ郵送にて報告している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき情報交換を行っている。近年は電子申請が多くなり、市役所へ行く機会が減少しているが、相談事などは電話やメール等にて連絡を取り合い関係性を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の開催と施設内外での研修を実施し、全職員に周知することで虐待防止について共通の認識を持ち、防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、外部研修等で学んでいる。必要に応じ活用できるよう支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対して十分な説明を行い、時間をかけて理解していただけるよう努めています。また、改定があった際には書面にて通知し、その都度、疑問点や不安なことなどがあった際は説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来設された際にご意見やご要望などお聞きしている。いただいたご意見等はすぐに検討し、対応させていただいている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、職員代表が全職員の意見や提案を聞き、労使会議にて意見を聞く機会を設け話し合っている。また、会議結果をカンファレンス等にて全職員に反映させている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	常に職員の努力や実績の把握に努めている。また、資格取得支援制度を利用し、職員のスキルアップを図るとともに向上心をもって勤務できるよう支援している。育児・介護休業法の改定に伴い、休暇取得しやすい環境の整備を行った。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修に参加し、個々のスキルアップの向上に努めている。また、より良いケアを行うため、常に職員同士でも話し合い互いに高め合える環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降、同業者との交流する機会が無かったが今年度はネットワーク会議の開催があった。参加予定だったが、今回は事情により参加できなかった為、次回開催時は積極的に参加したい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや畳む等、以前からされていたことを主に担当していただくことで、暮らしを共にする者同士の関係性を築いている。また、レクリエーションや物づくり等を一緒に行う時間を設け関わりを持たせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様に話しを伺ったり、利用者様との何気ない日常の会話の中から、趣味や特技を把握し、意向に沿った支援が行えるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が来設された際に、ご家族様の要望や意向の確認を心掛けているが、出来ない時にはお電話にて確認させていただいている。また、利用者様一人ひとりに各担当職員がついており、担当者がモニタリングを行いチームで介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が電子記録となったことで、日々の様子を容易に閲覧することが可能となり、情報共有しやすくなった。電子記録の申し送り機能の活用のほかにも申し送りノートを併用し、さらに細かな気づきを記入することで、毎日の実践に活かされている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望に対し、柔軟な支援が行えるよう可能な限り努めている。また、配置基準はありませんが、常勤の看護師を配置し、オンコール対応を行うことでサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域住民の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外のかかりつけ医を受診される際には、ご本人の症状をご家族様と共有するとともに、必要に応じ施設看護師から直接かかりつけ医へ症状をお伝えすることで適切な医療を受けられるよう支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の際は、病院関係者と連絡を取り合い、情報交換や相談に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前から、本人やご家族様に対し重症化した場合や終末期について施設で可能な支援について十分な説明を行うとともに同意を得ている。また、その都度ご家族様と話し合いながら支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に対し、応急手当や初期対応についての訓練を定期的に行い、実践力を身に付けられるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員に対し、昼夜の火災を想定した訓練や地震を想定した避難訓練を定期的を実施している。近隣地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れ受託している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレや居室入口にカーテンを設置し、外から見えないよう配慮している。人生の先輩として尊重した言葉かけや対応ができるよう全職員に対して指導している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面において自己選択する機会を設け、できる限り自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、できる限り希望に沿った支援を心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内にて職員が毎日手作りの食事を提供しており、楽しみとなるよう誕生日や行事に合わせたメニューに変更することもあります。行事食を一緒に作ったり、配膳を一緒に行ったりと個々の力を活かすことができるよう支援している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量については、毎食の摂取量を記録し、個々の栄養管理に努めている。摂取困難な状態の方はゼリー飲料や栄養補助食品等を活用しながら、できる限り経口摂取していただけるよう努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただき、自己ケア困難な方は介助させていただき、口腔衛生に努めている。また、歯科医による口腔検診も受けている。		

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄していただくよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難な方でも安心安楽に入浴を楽しんでいただいている。また、入浴順は決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるように努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休憩時間を設けている。足背や下肢に浮腫のある方には足挙上にて改善に努めている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書が綴っており、薬の情報が閲覧できるようになっている。服薬後の状態や変化があった際には、看護師に報告し、看護師から協力医や服薬管理をしている薬剤師へ相談するよう体制を整えている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援するよう努めている。また、時にはお酒を嗜んでいただいたり、喫茶店に行ったりして気分転換を図っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出掛けるほか、旅行やドライブなど外出する機会を設けている。また、ご家族様の協力のもと自宅に帰られたり、散歩や食事に出掛けられたりされることもあります。		

岐阜県 グループホーム ぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、施設内でお金を所持されている方がいらっしゃらない為、支援していない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族様やお友達の方との電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者様が共同で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾られており、季節感を表現している。イベントの写真も掲示しており、入居者様同士の会話のきっかけになっている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓際で日向ぼっこしながら、外の風景を眺めたり、ソファにて寛いでいただけます。また、入居者様同士の相性によって不快なく過ごせるようにその都度、席替えを行っている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の希望でテレビや使い慣れたタンスなどの調度品を設置している。居室にはご家族様との写真やご本人の作品を掲示し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、手すりも各所に設置されている為、安全に生活して頂けます。居室にはご本人のお名前と写真を掲示し、分かり易くすることで自立した生活を送れるよう工夫をしている。		